

# 【授業力向上推進プロジェクト】 事例3 社会福祉基礎

教科「福祉」テーマ

福祉の見方・考え方を働かせた  
授業実践とは

－障害者福祉分野における自立支援に着目して－

# 発表内容

---

- 1 昨年度までの研究の流れ
- 2 今年度の研究のねらいと流れ
- 3 「福祉教育」の研究実践
  - ・ 教員研修
  - ・ 研究授業
  - ・ 単元指導計画（障害者福祉）の検討
  - ・ 福祉科として育成する生徒像の検討
- 4 まとめと今後の課題

# Ⅰ 昨年度までの研究の流れ（社会福祉基礎）

年度	令和2	令和3	令和4	令和5
テーマ	ICT機器の活用	福祉の 担い手の 育成	地域の課題を解 決する力を育む 指導方法	福祉の見方・考 え方を働かせた 授業実践
分野	社会福祉の 担い手 (第5編第3章)	社会福祉の 担い手 (第5編第3章)	特別支援教育 (第5編 第1章)	障害者福祉 (第3編 第3章)
残された 課題	ICT活用の 推進	教員の障害分野 の強化	自立を どのように とらえさせるか	共生社会 への取組
研究発表	—	—	○	○

福祉教育研究の取組の定着に向けた1年  
(研究の引継ぎと現代的課題に合わせた実践)

## 2 今年度の研究のねらい・流れ

---

### (1) ねらい

ア 「自立支援」の学びの検討  
(研究授業)

イ 研究授業者の単元指導計画をもとに、  
再検討  
(社会福祉基礎  
第3編 第3章 障害者福祉)

## 2 今年度の研究のねらい・流れ

日程	会議・研修・研究授業	内容
5/30	第1回福祉教育研究協議会	研究テーマ決定
6/12	第1回授業力向上プロジェクト	研究内容・方法・計画
7/28	教員研修 第2回福祉教育研究協議会	障害のある親との交流 学習指導案の検討
9/8	研究授業 第3回福祉教育研究協議会	「障害者福祉の理念」 授業研究会
9/25	第2回授業力向上プロジェクト	単元指導計画の検討
11/24	第3回授業力向上プロジェクト	単元指導計画の検討

※ 「授業力向上推進プロジェクト」と連動して実施

### 3 福祉教育の研究実践

(1) 教員研修 (7/28)

テーマ 「障害のある子の親さんとの交流」  
～ 思いを聴く～

講師 大谷 弘 様

(各務原市手をつなぐ育成会)

無量小路 共美 様

(児童発達支援事業所 トライアングル)



研修の様子

### 3 福祉教育の研究実践

#### (1) 教員研修

##### 主な内容

▲親自身が自分の子どもの障害を受け入れることの難しさ

▲親なき後の問題（「8050問題」）



親が本音で話しやすい場づくりの必要性

- 福祉を学ぶ高校生には「合理的配慮」を進め、暮らしやすい社会をつくってほしい

### 3 福祉教育の研究実践

#### (2) 研究協議 (7/28)

内容 「障害福祉の理念」において、  
障害のある人の自立支援を  
生徒たちにどのように学ばせるか



研究協議の様子



# 3 福祉教育の研究実践

---

## (2) 研究協議

### 主な意見交流

- ・ ロボーツ（重度身体障害）の事例を深く読み、地域で自立生活が実現できた「要因」を検討する
  - ・ 実習後の自立のとらえ方の見直しの機会  
（介護実習と関連）
  - ・ 実習の場面で自立の観点で観察させる  
（介護実習前の指導）
- ⇒ 歴史的・体験的な観点から「自立」の指導を検討

# 3 福祉教育の研究実践

## (3) 研究授業 (9/8)

### ア 概要



研究授業の様子

内容 重度障害であっても地域で  
「ふつうの生活」を実現するための  
要素について考える

# 3 福祉教育の研究実践

---

## (3) 研究授業 イ 学習活動

- ・ 障害のある人が「ふつうの生活」を実現するために必要な要素について考える。
- ・ 生徒が考える自立と、障害のある人が考える自立の違いについて理解する。

### 3 福祉教育の研究実践

#### (3) 研究授業

##### ウ 評価規準【思考力・判断力・表現力】

障害のある人が「ふつうの生活」を実現するために必要な要素について考えている。

A：適切なサービス利用や、周囲の理解によって、「ふつうの生活」が成り立つことを考えている。

B：障害のある人が「ふつうの生活」を実現するために必要な要素を書き出すことができる。

C：「ふつうの生活」に必要な要素を書き出せていない。

### 3 福祉教育の研究実践

#### (3) 研究授業 エ 評価規準 (例)

**Aの記述** 共生社会の実現に向けて、本人のアプローチに加え社会や周囲への働きかけも記述している。

**Bの記述** 利用できるサービスなど、本人へのアプローチを中心に記述している。

**Cの記述** 必要な要素を書き出せていない。

自分の意見

- ① 地域の人々の理解を深めてもらう。
- ・親や家族のサポート、自立できるような生活づくり。(シェアハウス)
- ・周りの人との交流を増やす
- ② 周りの人も偏見や特別扱いをしない(なるべく)
- ・イベントの参加
- ・福祉用具の支援
- ・障がいへの理解

自分の意見

- ・ユニバーサルデザインが多く使われている環境
- ② 外出の付き添いサービスをしてもらう
- ・障がいについてある程度理解のある環境
- ・ヘルパーさん的役割を担う人
- ・信頼できる人、家族、親せき、友人
- ③ 障がいを持てる人が通う学校、職場

### 3 福祉教育の研究実践 (授業力向上推進プロジェクト)

- (4) 単元指導計画の検討 ※研究授業者作成のもの  
ア 意見交流を通して障害福祉教育  
に対するメンバー間の共通認識

#### 【障害福祉教育の留意点について】

- ・ 「共生社会」実現に必要なこと  
(実践やつながりの場の積み重ね)
- ・ 安易に「健常者」と「障害者」と区別する  
ような表層的な障害教育に陥らないこと  
(障害 = 「本人の生活のしづらさ」)

### 3 福祉教育の研究実践 (授業力向上推進プロジェクト)

#### (4) 単元指導計画の検討

イ メンバー間で本単元の入口と出口の共有

**障害のある人の支援**

(個別支援)

**共生社会の実現**

**障害者福祉**  
(第3章)

**社会の変革**

(障害の理解、社会的障壁の除去、合理的配慮等)

### 3 福祉教育の研究実践

#### (4) 単元指導計画の検討 ウ 育成したい資質・能力

知識・技術

障害福祉の理念のもと、障害のある人の生活を支える社会保障制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。

思考力・判断力・表現力

障害のある人の生活を支える社会保障制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する。

主体的に学習する態度

障害のある人の社会保障制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。



# 3 福祉教育の研究実践

## (4) 単元指導計画の検討

【ねらい】障害者福祉関連法の時代背景に触れ、基本的な内容について理解する。

「知識・技術」  
の例

①障害者基本法の主な特徴について理解する。

知

○

・障害者の定義、地域社会における共生、障害者差別の禁止等の重要な理念が明記されていることを理解している。  
(定期考査)

【ねらい】精神障害者の定義と必要な支援について理解し、ニーズに基づいた支援方法について考える。

「思考力・  
判断力  
・表現力」の例

②精神医療の歴史について教科書で確認し、事例から人権侵害の原因となる解決策について考える。

思

○

・精神障害者に対する偏見や差別の歴史や人権侵害の事例から原因と解決策について考え記述している。

例) 私宅監護の歴史や精神障害者に対する人権侵害の記事

(ワークシート)

### 3 福祉教育の研究実践

#### (4) 単元指導計画の検討

「主体的に学習する態度」の例

【ねらい】障害者福祉の最近の動向を踏まえ、共生社会のあり方について考える。

⑤障害者福祉分野における、共生社会の実現に向けたレポートを作成する。

(キーワード)

障害の理解、社会的障壁の除去、合理的配慮

思  
主

○

・障害のある人の社会保障制度の課題を発見し、根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。

(レポート)

※単元の終わりにレポート作成を課す

# 3 福祉教育の研究実践

背景 人口減少社会  
人生100年時代  
福祉業界の担い手不足

(5) 福祉科として育成したい  
生徒像の検討

人間の尊厳に基づく地域福祉を推進する人  
持続可能な福祉社会の発展を担う職業人

福祉科が目指す  
生徒像

<場面例>

課題研究、介護過程の実践（介護実習等）  
介護技術交流会（コンテスト）

探究

←各教科の見方・考え方を働かせて

活用

<場面例>

スマホ教室・サロン・マルシェ・ミニデイサービスの開催、ボランティア活動  
小学生や中学生への福祉体験の実施、  
出前講座の実施、特別支援学校との交流、

習得

【福祉の見方・考え方】 人権尊重、人権擁護、当事者意識、自立支援、福祉サービスの創造、共生社会 等

【専門的知識・技術】 福祉に関する法律や制度（サービス）、職業倫理、疾患、ICF、介護過程の展開、  
認知症・障害の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術 等

<場面例> 職業人講話、認知症サポーター養成講座、ケアプラン講習会、VRによる認知症体験  
介護実習事前学習（施設見学、オンライン学習）、フレンズクラブ登録

## 4 まとめと今後の課題

---

### (1) まとめ（成果）

ア 単元の入りと出口を意識した  
単元指導計画の作成（図にして共有）

イ 福祉教育をとおして育成したい  
生徒像を検討し表した

（具体的な資質・能力は未検討）

※次年度以降、別単元でも検討を継続

## 4 まとめと今後の課題

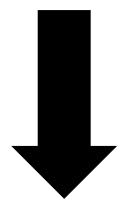
### (2) まとめ（福祉教育としての研究過程）

#### 高教研（研究協議会）



- ・ 単元指導計画の提示（研究授業者より）
- ・ テーマに基づいた教員研修
- ・ 研究授業の開催

#### 授業力向上推進プロジェクト



- ・ 研究授業者の単元指導計画の検討・作成
- ・ 福祉科で育成する資質・能力の検討（継続）

各学校で共有し、次年度以降実践・見直し

共有事項  
福祉科で目指す全体像  
と単元のつながり  
(単元の入口と出口)

## 4 まとめと今後の課題

---

### (3) 今後の課題

- ア 福祉科の教育課程における  
「社会福祉基礎」の学習の進め方の工夫  
(単元指導計画の実施と見直し)
- イ 共生社会をどのように実現するか  
次年度の研究テーマ  
→ 分野「高齢者福祉」  
例) 認知症の人へのケア